

令和7年度全国高校総体 「審判員報告書」

種目(C4 新体操女子)

1. 採点上打ち合わせた事項

【個人フープ DB】

- ・フェッテバランスについて、床へのブラッシング、ホップ等を映像で確認し、カウントの目安の統一を図った。動脚と支持脚を同時に見る感覚の重要性を感じた。
- ・フェッテピボットの評価について、沢山の映像で念入りに確認を行った。20 度以上の誤差、手具操作との関わり、回転不足など、見極めのポイントを確認した。
- ・DB 中の手具操作について、フープのくぐりについて、大きな 2 部位の通過が必須となることを再確認した。
- ・R について、プレアクロ 13 番(イリュージョン)の 1 回転回り切っているかどうかの見極めを映像にて行った。身体が完全に回り切らないまま垂直軸回転グループに移行してしまうケース等の回転不足に注視する必要がある。イリュージョンは DA パートでは開始と終了が同じ方向を向く必要がなくなった回転グループであるが、R では同じ方向まで回り切る必要があるため、正確に見極めたい。

【個人リボン DB】

研修では次の確認を中心に行った。

- ・0.3 の誤差にとどまるのか、0.5 の誤差かの見極めをし、判断すること
- ・基本回転が 180 度のローテーションは開始から 180 度以内に形をつくらなければならないこと
- ・手具操作が正しく行われているか、同じ操作の繰り返しになっていないか(方向や面の確認)
- ・リボンを手で持ったままローテーション DB を行い身体の周りに円ができるものは有効な操作ではなくなったこと
- ・R の必須条件が満たされているか、また追加基準としてカウントできるか

【個人フープ DA】

- ・ペースが正しく実施できているか（転がし・軸回し・くぐり抜け etc.）
- ・視野外位置についての確認
→横からになっていないか、後ろにあるか、逆さまになったときの確認
- ・DB との組み合わせで誤差や手具操作のタイミングによるカウントの見極め
- ・カウント、ノーカウントについては始めから終わりまで一貫した目線で採点を行うこと。
- ・悩んだ時には研修を振り返り、正しく実施できているかを確認すること。

【個人リボン DA】

- ・ベース、基準の確認。
- ・360 度の回転、リボンの正しい形、DB 中のタイミング、ブーメランの引き戻しなど、審判研修、映像研修でカウント、ノーカウントの確認を行った。
- ・DB 中の手具のタイミングについては、各身体要素で確認をした。

【団体 DB】

- ・DB の誤差がカウントできる範囲かどうかの見極め

- ・DB中に正しく操作が行えているか
- ・DEの必須条件、追加基準が全員行えているか
- ・DEの垂直軸回転グループ、プレアクロバットの重複について
- ・DEで、全く同じ投げ方や同じ受け方の追加基準は2回目から与えられないこと

【団体DA】

- ・振り付けとして演技に入れているプレアクロはプレアクロの総数に含まない事を確認した。
- ・CR2の際に、1名が回転不足の場合は基準の加点は無くCR1(0.2)としてカウント、1名が全く回転を行っていない場合はCR1と基準をカウントする等、マークアップにて追記された部分の確認を行った。様々なパターンに応じてカウントの仕方も異なるため、ルールブックを再度念入りに確認し、十分に理解した上で採点を行う必要があると感じた。
- ・CRにおいて通過の基準を得るには、投げの最中の通過では加点されず、関わりとしてのみ評価されることを確認した。

【芸術】

- ・アイデアのガイドと特徴において、身体難度に「特徴がある」とみなされるには、DBのどの段階でも示すことができること、パーツは切り離された瞬間ではなく、特徴ある連続した難度／つなぎで構成されるなど確認をした。
- ・表現における減点やダイナミックチェンジ・コントラストの創造など映像を見ながら確認をおこなった。
- ・特に映像研修では、実施度に惑わされず、しっかりと芸術性を見極めることの大切さを確認した。

【実施】

難度の誤差・身体部位・落下ミス・移動の減点項目を確認した

有効となるフェッテバランス難度を評価する（動足が床に着く・軸足のホップ）

有効となるフェッテピボット難度を評価する（上げ足の高さ）

難度の誤差の見極め、選手の質の見極め、プレアクロバットの形や身体部位の減点項目・手具の基礎技術減点項目の確認

2. 採点上起こった事項とその処理

【個人フープDB】

- ・ジャンプターンのシリーズのRについて、受けのタイミングや誤差によりノーカウントになるケースが数件あった。大幅に点数が変わるため、審判間でその都度確認を行った。
- ・バランス中の手具操作について、軸回しが完了する前にバランスを終えてしまうケースが多く見られた。全体的にバランスの静止がやや短いと感じた。DA基準として入れているバランスも同様に、止まりの甘さが目立った。
- ・フェッテバランスにおいて、ホップや床へのブラッシングがあった。研修時に見解の統一ができていたため、審判間での差異はほぼなかったが、動脚と支持脚を同時に瞬時に見る力を今後高めていきたい。
- ・スイッチ系のジャンプにおいて、脚の入れ替えが不明確なケースが何度かあった。今大会は見えた形でカウントしたが、今後はダウングレードがなくなるため、選手自身がルールを理解し、脚のスイッ

チを明確に行うことを意識する必要がある。

- ・エカルテのバランス、ローテーションについて、上体位置が高い選手が多くみられた。十分な開脚度があってもカウント出来ず、残念であった。難度のフォームの正確性を高めることに期待したい。

- ・フェッテローテーションにおいて、誤差によるノーカウントを回避してパッセの形で実施する選手が大半を占めているように感じた。しかし、パッセのフェッテピボットにおいてもドゥバンフェッテと同様に動脚の誤差に注視する必要があることを改めて感じた。いずれの形においても、明確なアラセゴンの形を見せられるよう、回転中、ブリエ、全ての局面において誤差のない正しいフォームで実施できるよう、徹底する必要性を感じた。

- ・Rにおいて、受けの基準がやりきれない印象を受けた。特に受けの視野外の入り方が不正確な選手が多く見られた。手以外、視野外を正確に実施出来た選手と少しずつ差がつき、最終得点にも影響していると感じた。今サイクルからRの数が減ったため、1つ1つのRの基準をより充実させる必要があると感じた。

【個人リボン DB】

- ・フェッテターンは、各選手が無理なくできる範囲の難度を選択していたため、誤差の見極めをしカウント、ノーカウントの判断をした。

- ・DB中に回旋の操作を行う場合、きちんと回り切っておらずDBがノーカウントになるケースが見受けられた。垂直面、水平面の回しのどちらもそのようなケースがあった。特にジャンプでの実施は注意が必要である。

- ・ジャンプターンシリーズでのRで、ジャンプターンの誤差や受けのタイミングが悪いことによってノーカウントになることがあった。

- ・Rのリボンキャッチのタイミングが音楽終了後であったためノーカウントになることがあった。

【個人フープ DA】

ノーカウントになったケース

- ・垂直軸回転が回りきっていないことで基準がカットされたもの
- ・軸回し（ベース）と回転（基準）との組み合わせで、回転の開始が遅かったもの
- ・転がしは正しく実施できている選手が多い印象であったが、基準ができていない(DB がカウントできない、タイミングが遅れる、360° 回りきれてない等)もの
- ・高い投げで DA、(高い投げからの)受けで DA を実施の予定が、低い投げになってしまい、さらに投げが基準のカットでノーカウントになり、受けも(1つのベースのため)カウントできなかったものがあった
- ・手以外での軸回しが正しく出来ていないもの(1回転していない、軸がない等)
- ・視野外位置が不正確な実施がいくつかみられた
- ・似通った DA の実施が多い中で、他には無い個性的、斬新、工夫された DA もいくつか見られた。
- ・全体を通して精度が高く、熟練されたものが多い印象であった。

【個人リボン DA】

- ・実施はしているが、正しくリボンを操作できていない選手は、ノーカウントになってしまう DA が多く、点数に繋がらなかった選手が数名いた。

- ・視野外位置が正しくなく、ノーカウントになってしまう DA もいくつかあったが、カウント、ノー

カウントは同じ見方で最後まで採点することができた。選手自身が視野外位置を明確に実施しようと取り組むのが見えた。

- ・垂直軸回転の回転不足については、不足する選手も多く、ペースはできているのにノーカウントになってしまうことがあった。
- ・バランス中の DA は、バランスの誤差、静止がなく DB がカウントできず DA もノーカウントになってしまうことがあった。
- ・ルールに沿ってカウント、ノーカウントの評価ができた。

【団体 DB】

- ・フェッテターンは、5 名のうち 1～2 名が大きな誤差を伴いノーカウントとなることがあった。
- ・DB 中の操作が正しく行えておらずノーカウントになることがあった。
- ・DB を実施する角度やフォーメーションにより見えにくいことがあったが、その都度全員を注意してみるよう心がけて判断した。
- ・DE の投げが低く、8m ない実施についてはノーカウントとなった。
- ・DE の加点として行う垂直軸回転グループの繰り返しがあったため追加基準がノーカウントになるケースがあった。
- ・DE の数が多く、成立したがカットしたものがあった。
- ・追加基準を全員で実施できないケースが多々あった。

【団体 DA】

- ・連系の総数が前サイクルよりも減ったこともあり、連系のオーバーラッピングはほぼ見られなかったが、CR や複数投げが予定よりも高くなった際に CC がすでに開始されてしまっているケースがいくつかあった。
- ・複数投げにおいて、高さ・距離どちらにも不足がありノーカウントになってしまうチームがあった。特に、視野外・手以外などの追加基準をつけている時に片方の投げが小さくなってしまうケースが目立ったため、注意して練習を重ねる必要があると感じた。
- ・ミスの後などに CC が同時になってしまうチームがあった。1 つ前の要素の書き取りや判断に迷いがあると見落とす恐れがあるため、瞬時に書き取りと見極めを行なう経験をさらに重ねていきたい。
- ・複数名の CR において、垂直軸回転の際に回転不足となるケースが多くあった。1 名の回転不足により追加基準が無効になってしまうため、全選手がより正確に実施する必要がある。

【個人芸術】

- ・ステップがしっかり 8 秒間あるか、特徴があるかなどの確認をした場面がいくつかあった。
- ・技が羅列になっている場合があり、そうでない選手との差をつけていく必要があると感じた。
- ・映像研修でもあったのだが、ラストにおける不一致を減点するかしないかで分かれることがあり、確認をしたケースがある。また、中断では 4 秒あったかなかったかで点数にも大きな違いが出る。大きな失敗によりリズム減点だけで良いかの判断も難しいものがあり確認した。
- ・つなぎや動きの中に、キャラクターに合ったものをしっかり入れている選手は芸術性があり、とても良い演技に見えた。

【団体芸術】

テーマ性がしっかりと見えるチームには良い得点がついたように感じる。

エフェクトやダイナミックチェンジは大変悩むことが多かった。曲は変化しているが、選手達が変化していないように見え、とれないものが多かったように思う。これからの練習において、もっとはっきりと変化させられるようになることを願っている。また、曲選びについては選手達に合っているのかどうかを考える必要があるのではないだろうか。唯一無二の作品作りは大変ではあるが、同じような曲ばかりでも面白味はない。自分たちにしかできないような作品が今後増えていくことを願う。

【実施】

以下の評価の確認をした

- ・ 難度の誤差（身体の形、開脚度）
- ・ 四肢の美しさ
（重心の高さ、膝、つま先の美しさ、身体部位の不正確な保持、R 中の足元）
- ・ 落下の減点 落下ミスなのかキャッチか見極める
（審判席から認識できないキャッチがあった 評価に差異があり確認していただいた）
- ・ フープの手具操作（フープの面の乱れ、身体に近い）
- ・ リボンの手具操作（リボンの描きの甘さや未熟な箇所が見受けられる）

3. その他特記事項・意見・感想等

【個人フープ DB・団体 DA 積光 千里】

この度は、全国高校総体において、審判業務の機会を頂き、心より感謝申し上げます。全国の高校生達の個性ある演技が光る試合となりました。高校選抜、全日本ユース、各地方大会等を経て、シーズン序盤よりも、新ルールが求める今サイクルの新体操を各チーム・選手が追求し、練習を重ねてきた気迫が伝わってきました。伸び盛りである高校生達の今後の活躍を期待しております。

『全国の高校生達が目指している試合であり、審判員も準備をして臨んでいきたい』という伊豆島審判長の初日のお話を胸に、研修から審判実務まで選手と同様に緊張感を持つことを意識して過ごしました。書き取りや瞬時の見極めを徹底し自身のパートに責任を持つと同時に、選手の放つエネルギーや持ち味を味わう余裕を持てるよう、今後も日々研鑽を積み、審判技術を磨いてまいります。

大会を運営して下さいました山口県の役員の皆様、高体連体操専門部の皆様、全ての関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本当にありがとうございました。

【個人リボン DB・団体 DB 菅 歩】

この度は、インターハイという高校生の大会で審判をさせていただきありがとうございました。大会期間中は思いがけない豪雨もありましたが、開催県の先生方の迅速な対応に感謝しております。

各県から出場された選手やチームはカラーが異なり、高校生らしいはつらつとした演技を見られたことに大変喜びを感じました。個人はリボンの DB を見させていただきましたが、リボンは特に DB や R のバリエーションが少ないと感じました。今後、様々な技に挑戦していく姿が多く見られることを期待したいと思います。団体は DB を見ながらも作品が感じられるチームが幾つかあり、各チームのこだわりを感じることができました。このようなチームが増えることによって観客も更に楽しめると思いました。

今回審判させていただいたことによる気づきを今後に活かすため、研鑽を積みたいと思います。あり

がありがとうございました。

【個人フープDA 坂本 美妃】

研修を含め、3日間にわたりインターハイという大きな舞台で審判をさせていただき、誠にありがとうございました。また、全国から勝ち上がり集まった選手、チームの白熱した演技に大変感動いたしました。ルールを正しく理解し、正確でミスのない実施や、ミスがあっても最小限にまとめようとする姿勢が、上位へと繋がっていくのだと強く感じました。

大会期間中は天候不良の影響もありましたが、円滑な運営を支えてくださった山口県体操協会の皆様、並びに高体連専門部の先生方のご尽力により、審判としての活動を無事に終えることができました。このような大舞台で貴重な経験を積ませていただきましたことに、改めて深く感謝申し上げます。

【個人リボンDA 牟田 樹】

今大会に審判員として参加させていただきましたことに心より感謝申し上げます。

高校生の熱い戦いに、思いが溢れる姿に胸が熱くなりました。

団体では、ミスに泣くチームもありましたが、最後までやりきる高校生の姿に感動するとともに、本番の仕上げる難しさも改めて実感しました。個人では、上位選手は作品の特徴、つなぎの工夫が見られ正しい実施力で選手の強さも感じられました。曲の特徴を選手自身が表現できていない、羅列になってしまう選手もいましたが、個々の能力に合わせ、どの選手もここまでの努力が伝わるものでした。

開催県である山口県の先生方、全ての役員の皆様、高体連の皆様には準備から運営、片付けまで細かなご配慮をいただきまして感謝申し上げます。そしてこのような大会に審判員として貴重な機会をいただけたこと深く御礼申し上げます。ありがとうございました。

【個人団体 芸術 一瀬 留美子】

試合当日は大雨の中の試合になりましたが、無事試合ができ、終了できたことは本当に良かったと思っています。特に山口県の役員の方々には、頭が下がる思いです。雨漏りのためにフロアの移動をしたり、バス輸送の時間が遅れて大会時間をずらしたりなど様々な対応に追われていたと思うのですが、そんなことは微塵も見せずに動かれている姿に感動しました。本当にありがとうございました。皆様のおかげで、選手達も頑張れたと思っています。また、私たち審判団の移動も考えてくださり、本当にありがとうございました。感謝いたします。

【個人実施 竹田 彩乃】

今大会に審判員として携わらせていただきましたこと、貴重な機会をいただけたことに感謝申し上げます。

インターハイの審判員として初めて参加させていただき、今大会に懸ける高校生の熱い思いやエネルギー、動き、表情、表現、作品から溢れるものを肌で感じました。個人・団体ともに音楽の特徴を捉えた個性的な作品、芸術的・美的な作品に魅了されました。四肢の美しさ・手具操作は基礎を習得する上で欠けてはいけない重要なポイントであることを改めて痛感しました。

今大会の開催にあたり山口県実行委員の皆様、高体連の皆様、全ての関係者の皆様、心より感謝申し上げます。

この経験を今後の審判活動に活かしてまいりたいと思います。

ありがとうございました。

【団体 実施 下元 京子】

- ・四肢の減点が多いチームがあったが、難度が取れないような誤差の減点は全体的には少なかったように思う。(構成の工夫)
- ・ミスをすることで、大きな減点となり、その後もミスが続いてしまう傾向にあった。
- ・接触による減点は、少なかった。

【副審判長 神野 未来】

今回は、DB と E を中心に審判業務にあたりました。今大会はルールが新しくなってから初めてのインターハイということもあり、各所属でルールを模索しながらこの夏を迎えたのだなということが、よく伝わってくる熱い大会となりました。

この時期での開催は、暑さや天候の影響が懸念されますが、今大会も例外ではなく、線状降水帯の影響により、特に大会 2 日目には大雨・洪水警報が発令され、地元の高校生スタッフが派遣されない状況となりました。そんな中でも、多くの先生方が汗をかきながら運営に尽力してくださっていました。雨漏りの影響や、渋滞による時程の変更、選手の体調不良など、大小さまざまなトラブルが発生しましたが、それらを一つひとつ乗り越え、競技自体には大きな支障をきたすことなく進行することができたことに、心より感謝申し上げます。

この度は、このような大きな大会で副審判長という貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。緊張感の中でも、伊豆島審判長のおかげで無事に大会を終えることができました。貴重な経験に心から感謝いたします。

【審判長 伊豆島 知佳】

この度は、全国高校総体という高校生の大きな目標である大会での審判長の機会をいただき、ありがとうございました。

昨年パリオリンピックが終了し、新しいオリンピックサイクルで新ルールとなり初めての全国高校総体でしたので、以前よりも更に個性の光る演技が増えた大会になりました。ただ、難度の必要数は減ってもミスは多く、このルールの芸術的要素を組み込むという難しさを感じました。そして、高体連での久しぶりのアンサンブルの種目であったことも、団体苦戦の要因かと思いますので、うまくトレーニング等にも様々な手具でのコーディネーションを入れていく必要があると考えました。

また、開催地の先生が少人数であるため 1 人で数人分の仕事量をこなし、同地方の先生方と協力し審判業務に支障なく進めていただけたこと、厚く御礼申し上げます。災害級の悪天候で期間中、大会終了後も沢山のご配慮をいただき、全審判員が安全に帰宅できたことも運営の皆様のご尽力のおかげであります。深く感謝申し上げます。

最後となりますが、運営関係者、高体連専門部の先生方の皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

以上